

[文献考察]

## アメリカにおける成人基礎教育

### プログラムのモデルについて

金 英 子

1974年、国際読書学会から公にされた、成人基礎教育プログラムのモデルは、代表的な5つをあげている。それ等5つは、それぞれ異った読み学習プログラムとして、注目をあびている。実際に現地を訪れる場合、興味深くさせられる学習センターの様子が参考の契機になればというのが目的の一つとして、示されている。5つのモデルは下記の通りである。1) ニューヨークのアルバニー成人学習センター。ここでは、個別化したクラス教授の補助的な手腕が用いられ、繁華街の真中で行われる成人基礎教育プログラムが、都市で成功した最もよい例としてあげられている。2) オハヨーのバクトン学習センター。ここでのプログラムは、都市から離れた田舎における、個別家庭訪問のアプローチが研究の実例に利用されたものとしてあげられ、3) オレゴンのグレンツ・ベス 成人機会プログラムである。このセンターは地域のカレッジや小都市における教会などで大学の支部としてプログラムを提供したものについてあげられている。4) カナダのサケッチバンにあるプリンスアルバートのニュスタート。ここでは3段階の基礎教育プログラムの為に教員養成のプログラムを用いた職業区分までも含めている。5) コロラドのキャノン市にある刑務所内でのペナル読みプログラム。ここでは最高安全、中間安全、コロラド州立刑務所の女囚分所における基礎教育プログラムが成功裡に発展をなしたことについて説明している。

それぞれのモデルには成人基礎教育プログラムを提供している問題と直接取り組んでいる。そのモデル使用によってアプローチされていることがこの企画のユニークで興味をひく点である。これらのモデルはアメリカばかりでなく、成人教育基礎プログラムとして、いずれも今まで社会からあまり注目されてなかった場所での落穂拾いのような尊さが感じられる。従ってこれらはこれからの教育プログラムとして充分参考になると思う。5つのモデルを通して言えることは、プログラムの根底に拡がっている人間の心がある特定の場の中で、協同しあい学び教えられていくそれぞれの学習が精一杯いきいきとえがかれているということである。そこには生きることの厳しさと対面して、始めて一生懸命センターを探し求めて来た学習者の真剣さがある。同時に、学習者を暖かくむかえ入れて学ぶことのよろこびを抱かせるきっかけをつくることに懸命な助言者がいる。成人基礎教育プログラムは、正式な学歴年令の人達が集る場所ではなく、一度、何かにつけ、社会とのかかわりをもった人達が新しい生き涯いを求めて辿りついた社会で要求されている基礎教育の基本をなす読み問題に直面し、つまづきを経験し、自発的にこの問題を解決しようとする努力と興味をもって工夫し助けあおうと集まる場所である。このモデルを応用すれば身障者達の成人基礎教育にも相通ずる一面が見られる。具体的に5つのモデルプログラムについて、それぞれの概略を考察して異った面を浮き彫りにしてみたい。

I. ニューヨークのアルバニー成人学習センター。39こまのパネルにわかれ、それぞれの単元標題がついている。それは下記の通りである。

1と2. 南ピアル街 3. メック 4. 2人の学生と読みのきざし 5. 門衛の押入 6. 2人のビジネスマン 7. グランド・ユニオン, スーパーマーケット 8. メックと受付係 9. メックと読み 10. サラとメック 11. サラとメックとアン 12. センターの見学 13. プログラムされた資料 14. クラスルーム 15. メックとゴルデー 16. 時間表 17. メックとゴルデー 18. と 19. ロージラモレラ 20. メックとT V回線 21. 箱詰め資料 22. メックとプログラムされた資料 23. メックに残されたコース 24. メックとクラスルーム 25. カリフォニア適性試験 26. メックとサラ 27. グレットマーフィとゾン・テラシー 28. 読みに従って 29. グレットマーフィ 30. 経済財源 31. 学生ラウンジー 32. センターの廊下 33. 身体障害児とカンセラー 34. ビデオテープ 35. スタッフ面接 36. アルバー街 37. メック読み 38. メックの先生 39. メック階段を昇る。

#### <登場人物>

メックはアルバーニーで育ち、学校は中途退学、やっとの思いで混乱しない道を発見する。何年間か学校へ通っていたが、1年生の読みの実力しかもっていない。メックは皿洗いや掃除夫でさえ「読むこと」と「書くこと」が出来なければ問題が起り、終には免職になり、それ以上の職につくには必ず高校卒業証書が必要なことを知る。仕事もなく教育もなければ他の人を導くことは到底駄目だとメックは自覚する。そこで彼はグランド・ユニオンのスーパーマーケット近くにある成人学習センターの門をたたく。ここにおいてメックは半年の間学習して3年生の学力を読みの上でつけている。

メック以外の登場人物は下記の如くである。

バーバラ；, 学習センターの受付係。 サラ；, カンセラー。 アン・スミス；, メックがカリフォニア適性試験を受けた時、適切なスタートを助けてくれた人。 グレットマーフィ；, L. L の助手。 ゾン・テラシ；, 読みの専門家、教授。 ジョージカイト；, ビデオテープ操作をする人。

#### <テスト>

1. オーラル読み スクリンテスト
2. カルフォニア 適性試験
3. アチーブメント テスト

100時間学習後 カルフォニア アチーブメントテストを行う。更に100時間学習後にテストを行う。

4. アイオワ テスト
5. 高校卒業検定試験

#### <コース>

残存コース、ワーク・オリエンテーション消費者教育、健康、法律、等ある。

「資料」 実際法律のビデオテープ、読みスキル教授、言語マスト、単語カード、教育的開発研究所の視聴覚X、言語マスター、リード・アチーバー、リーダス・ダイゼスト、S. R. A.、モット、エデソン・ウエスリ、メックロヒル、ビヘイヴイアル・リサーチ、カンテネンタル プレ

ス、コース出版等である。

#### <関与するアゼンシー>

WIN、厚生福祉、職業的教育、作業経験労働局、人力開発職業準備、隣近青年コープス州立雇用サービス機関等である。

#### <財 源>

全費用の $\frac{2}{3}$ が 福祉教育タイトルⅢ、成人基礎教育による。その他地域学校からが12%、シビルサービス高校同等基金で10%まかっている。隣近青年コープスの援助、MDTA、実業家団体、職業教育、WIN、ナイアガラモハク電力会社等で僅かのパーセントを占めている。

収容人員は年間1,000名以上に達する。普通平均的な学生で167時間の授業を受けている。1973年の例では71名に8年生修了証が発行され、142名に高校同等卒業認定書が与えられた。107名は訓練コースに進学し、207名は新しい職を求めた。(その中の55名は福祉地位からぬけ出す事が出来たとされている。)

センターに入って来た学生達の $\frac{1}{5}$ は2箇月で減っていく。40%は職をやめ、30%は上級に進む。センターをやめていく学生の半分は個人が目標としていた事が達成されたと認められた人達である。残りの半数は家庭の事情により、あるいは個人の病気などに起因している。病院に従事している人達が第二言語としての英語学習をセンターに於て夜間うけている。

メックは良き教授技術によって学習出来る場所を見付け、比較的彼にあり実際のプログラムにより、彼に必要なすべての援助を受けられる結果になった。これらの効果は口から口へと言葉によって伝わっていったとされている。

II オハヨーのバイクトン学習センター。49 フレームが一連をなしている。それらは次の通りである。

1. バイクトン
2. 製材所
3. 原子力プラント
4. 動力線
5. 使い古した丸太小屋
6. 農園でのバーバリ
7. バーバリの農園
8. バーバリと農園
9. バーバリと赤ちゃん
10. バーバリと赤ちゃん
11. バーバリと子供達
12. ジャネット(車にて)
13. ジャネットとバーバリの会話
14. ジャネットとバーバリ
15. ジャネットとバーバリ(車にて)
16. バーバリ屋外で
17. ジャネット・ケン
18. ジャネットがバーバリをテストする
19. ジャネット・バーバリと共に学習する
20. 教授的段階に従って読む
21. ジャネット・バーバリ
22. と 23. ジャネット・資源教師
24. バーバリ試験をとる
25. メックスウエイとジャネット
26. インサービズ
27. インサービズ・クラス
28. 学生記録カード
29. ミニラボ
30. バイクトン高校
31. ペロナ
32. ペロナとアイデ
33. プロファイルテスト
34. アイデがペロナを助ける
35. ペロナ・プログラムで勉強
36. アイデとペロナ
37. ケーキ・デコレイション・クラス
38. バーバリ家を後に
39. モビルハウスでのジャネット
40. スタッフ・インタビュー
41. バイクトンホーム
42. ジャネットとバーバリ
43. 田舎家
44. 読みを遂げるに従って読む
45. 個人学生のコストに従って読む
46. 学習センター
47. 農園
48. バーバリとジャネット
49. バーバリ。

### <登場人物>

ゼブロンバイク将軍が1813年、カナダ高地のヨーク攻撃で殺された故にパイクトンの名前をとって来ている。

バーバリは10人家族の主婦で10年生まで学校に通ったけれど、その読み能力は貧しい。

ジャネットは神父であると同時に週一回の学生を27人1時間づつ個別指導している。

ゲンはバーバリの夫でメカニックである。

メックウエイはプログラムの先生、ペロナはセンターで学習している。マリッタは学習センターでの常勤助手、等である。

### <テスト>

1. 配置テスト 読み、算数
2. 学習センターで行なり読み困難のチェックリスト

### <訓練>

ホームスターター、パイクトン成人学習センター並びに高校における6つのミニ・ラボがある。教生訓練には以下の5つがある。

- 1) 訓練の形式には正式なワークショップ
- 2) 土曜日は訓練進行につかう
- 3) 資源教師との語り合い
- 4) センター長のメックウエイとの相談
- 5) ジャネット神父と非公式な討議などである。

教授段階に従うよみは、算数と読みについて教授的レベルを見付ける。教師が学習者のウイーク・ポイントを指摘する。宿題の困難な所は教師が来るまでとっておく。一週間過ぎた後、学習したものをチェックする。それぞれの学習者は個人のレコード・カードを持ち、それによって進行状況、比較的な個人データがわかる。

講義を受ける時間は僅かしかない。メックス・ウエイとの語り合いで読み教授について説明する。家庭教師は資料について速やかに習う。教生訓練は32時間、土曜日の訓練は104時間。モアヘト州立大学アパラチア成人基礎教育センターはパイクトン・プロジェクトが支部として、引き継ぎプリサービス・プログラムのスポンサーである。

### <クラス>

ケーキ裝飾クラス、洋裁、木工などがある。すべてのプログラム参加者は合計1,100名から1,200名に及ぶ。130は家庭スターティプログラムに属し、60名以上がパイクトンにある成人学習センターに通い、残りはミニ・ラボに従事している。

費用は学習センターに於いて学習者一人につき106ドル、家庭学習で191ドルと報告されている。学習センターと家庭学習では1時間につき150ドルと143ドルの割合になる。

援助機関は地方の学校で施設を使用し、資料や職員の給料は連邦政府の成人基礎教育の基金から出る。

Ⅲ、オレゴンのグレンツ・ベス成人機会プログラム。58フレームが一連をなしている。それらは次の通りである。

1. クラズルーム
2. グレンツ・ベスセンター
3. ガータ湖
4. サベージ・ラピトダム

5. ロギー河 6. 鉱山オフィス 7. 鉱山オフィス 8.と9. 鉱山 10. 材木取引 11. 製紙原料の貨車 12. 丸太取引 13. 家 14. 丸太トラック 15. デーブ、ステーブ、バブ 16. ログ地域カレッジ表示 17. 読みセンター 18. 教育ビルディング 19. バブ、アレン・ライチエンスタイン 20. マーロン・ミハルと学生 21. バブと学生達 22. デーブと学生 23. スキールセンタサイン 24. ステーブ 25. バブとステーブ 26. ステーブとマーロンコーヒポットで 27. 28. ステーブとマーロン 29. センターでのステーブとマーロン 30. 読む人 31. 机に向う人 32. 読む人 33. センター 34. ステーブとマーロンがフォルダを記入する。 35. ステーブ、テストを受ける 36. マーロン 37. マーロンとステーブ 38. ステーブと資料 39. マーロンと学生 40. バブと学生 41. バブと学生達 42. マーロン 43. ステーブ、機械と共に 44. ステーブ、箱づめと共に 45. 資料 46. 学生 47. 地図 48. 学生 49. マーロン 50. バブ 51. 託児センター 52. マーロンと学生 53. センター 54. マーロンと学生 55. ステーブ 56. ステーブとマーロン 57. バブと学生 58. バブ

#### <登場人物>

デーブは無教育で材木仕事を辞めた浪人。ステーブは海軍停年退職でグレンツ・パスに落ち着くことを考えている。バブは夫人と6人の子供達をかまえている人で、重労働の末、背中を痛め福祉の世話を受けている。彼は小学校3年生程度にしか読みの能力をもっていない。(オレゴンの西南部には何千という文盲がいる。)クリップ・ノリスはオレゴンでの成人教育長である。マーロン・ミハルはセンターの教師、アレン・ライチエンスタインは成人機会センター企画に関係した。バブはセンターの先生になり、デーブは学生係になる。学生の紹介による学生がふえていく。

#### <施設>

ログ地域カレッジに現代式読みセンターが設置され、成人基礎教育が必要とされているその学生の要求にあわせてつくったけれど、多くの成人はケンパスの外に旅行することが出来なかった。そこで街にある第一メソジスト教会で、先ず成人機会センターを始めるようになった。オレゴンの成人教育長のフリップ・ノリスの助力により最も成功的なプログラムになった。カレッジではいろいろな成人教育のプログラムがアレン・ライチエンスタインの関連により成人機会センター計画も含まれていた。街にあるスキル・センターでは高校卒業検定が受けられた。オレゴン西南部にあるゾセフィンとゼクソン・カウntyにもログ地域カレッジプログラムがある。メドフォトとケイブ・サンクションにある学習センターに於ても成人基礎教育の学生達が基礎、中級、高校同等の教育を受けている。

#### <テスト並びにコース>

配置テストが行われ、S R Aよみのフォルダに記入し12時間経過した後は本人が管理する。理解に関する配置テストを更に行なう。その結果によって読み教授の一般的段階がわかる。テストの結果、資料の使い方が決ってくる。高校卒業検定考査の準備を行い一科目ずつテストを受けていく。

生涯研究セミナーでは非公式な談話により学生達が彼等自身をもっとよく理解し、彼等の文化背

景と比較して優秀な文化背景の理解をも含めていく。

基礎読み教授にはベル、ヘーウエル言語メスタ並びにEDL、視聴覚Xが用いられる。ステックーボガン、エテソノーウエスレイ、リーダスダイジェスト、SRA等の資料を用いて読みを深めていく。

クレンツ・バスセンターで学習したそれぞれの学生が他の学生をすいせんして学ばれるようにする。130名の学生が収容され、その中で15名だけが病気や移転の理由でやめている。実際中途で辞めた率は1%程度に過ぎぬ。

というのは実際にセンターの中でスタッフが熱心に面倒を見ているからである。何所でも暖かい心のふれ合いがありセンターの中には子供を持つ母親の為に子守の役もセンターのプログラム奉仕の一部をなしている。スタッフは気持ちよく進んで非公式なカンセリン・セッションを設けている。

センターの中では30人から40人が一度に学習してもそれぞれが個人のペースで自分の道を進んでいる。スタッフに対する評価は高くバブもステーブも高校卒業検定考査に合格し先に進んでいる。学習のかたわら彼等は他の学生達の世話を熱心にみる。

このセンターの重要なことは1人の先生に二人の助手がいて小さな街の中でプログラムを操作している事である。その中心がセンターでの学習者達によって位置付けられている。財政は比較的貧しいが教師と助手のきつながしっかりしている。資料は充分で教会にある施設はよい。暖かい人々によって受け継がれる態度がプログラムを成功させている。

#### IV カナダのサケッチパンにあるプリンス・アルバートのニュースタート。

48フレームが一連をなしている。列挙する。

1. プリンス・アルバートのニュースタートロゴ
2. カナダ地図
3. 畜産業
4. ニュースタートロゴ
5. ニュースタート・オフィス
6. ティ・スタート
7. コンガ
8. 成人再教育法発展
9. スタート
10. コンガとスタッフ
11. カナダ地図
12. バラド資料
13. テスト
14. カナダ地図
15. テープ教科書
16. 音声バラドブック
17. 先生と生徒
18. バラド資料
19. ケンパビル村
20. リチャド・クエトラック
21. 生徒達
22. ビル
23. パノン・ムーレン
24. リンク・プログラム
25. パノン・ムーレンとグレンテベット
26. 生徒達
27. センター
28. ジョージアン
29. カレージ
30. アンゼラ
31. アンゼラと先生
32. ライフ・スキル
33. ラーフ・ヒムスル
34. 自身、職業、家族、余暇と地域社会
35. クラス
36. 教師
37. カナダライフ・スキル地図
38. ファインドレイ学校
39. ビア
40. クラスルームでのビア
41. クラスでのビア
42. ニュースタート生産センタ
43. 学生達と教師
44. 学生と教師
45. 学生達
46. 資料
47. 教師と学生達
48. 学生達
49. カナダ地図。

#### <登場人物>

ビー・スタート・コンガーはニュースタートの企画者で成人教育に対する一般学校教育と違う点を指摘している。1) 成人に子供の教材を使うのは失敗である。2) 効果的でない視聴覚を使うのはよくない。3) 高校の生徒と違い成人に高校のようなカリキュラム設定で操作するのは効果的でない等である。

ニュースタートでは3つの基礎プログラムが開発された。1) バラト：成人開発に対する基礎読み書き能力 2) リンク：カナダ人に対する個別化学習 3) ライフ・スキル プログラム等である。

バラト・プログラムはナイト・ウェイトの指導下で開発された。5.0レベルで会話と算数を十分に成人が学習出来るようにしてある。限られた労働市場と将来の学問進出に役立つように基礎的算数が出来、読み書きを習う。また学習者が“どのように習うか”という基礎を習得し、効果的な生活に必要な知識と基礎的な個人スキルを得ることに役立つように助ける。

バラトの資料は実験テストされ、生産された時、評価され、改訂されていった。編成は発見の基礎に基づいてされた。実験テストがすんだ後は速かにカナダ中へ広がっていった。成人が興味を持つ段階で、成人の知能スキルによる成人の言葉で資料がつけられていった。学習者自身の早さで、進行することが学生に許され個別化された資料に仕上げられていった。バラト資料の特徴の一つはナイト・ウェイトが考案した“テイブーテキスト”使用を併用したことである。バラト プログラムのもう一つの特徴は音声キウ、システムである。それは文字や文字のグループがどのように不規則的に発音される語の中で音を出すかを示している。学生は物語りのきっかけになる説明を流暢に読めるまで練習する。それからきっかけの説明がついてない方を読んでいく。後からは殆んど説明のない方から読んでいくようになる。

教師は個々の学習者を見守り、進行をテストし、必要な時に教え、困難をなおし、激励し、指導していく。資料は教師がこれらの機能を達成することを助ける。バラト資料はかんたんに言って“14箱の資料”として説明されている。

ケンパビル・マニトバではおおよそ700人が多くの問題に直面している。マンワブ：マニトバ連合北部ワーク活動プロジェクトはリチャド・フェドラックがダイアン・カメロンと共にマニトバ北部へ学問的な技術的コースをもたらした。ケンパビルのような地域環境では成人基礎教育を通じて人生を豊かに過せるようになったと人々はほめたたえる。外部の人達によるのではなく地方の人々によって成人基礎教育が施行せられればもっと効果的であろうと信じている。この理由で地域社会からバラト・プログラムで教える人々を訓練する為に選抜する。ケンパビルにあるマンアブの地方スタッフは彼等自身を向上させる学習を進んでやる熱意によって基礎読み書きプログラムを選択した。或る学生達は10哩もある森の中を歩いてクラスに出て来る。

ビルはトラック運転手であるが、読み書きが出来なくて終に免職にされた。マンワブに学生として受け入れられた彼は、むづかしい勉強を続けるように努力した。彼はバラトプログラムに入り重機具修理コースを目指した。成人教育プログラムはつまづいたビルの人生を明るいものに変え、彼自身と家族の面倒を楽しく続けられた。

バーノン・ムーレンはリンクプログラムを彼の指導下で発展させた。リンクプログラムは個別化した5学年から10学年に至る段階で、会話と数学を成人教育の基礎にすえた。学習者の将来職業訓練の一端として知っておくべき必要のあるものを重点に取りあげて配置する注意深い配慮がなされた。

ペノン・ムーレンとグレン・テベットは個人の要求に適合する行動的目的をすべての単えを配列するに当り、すいせん資料や参考書に至るまで個人教授の必要を満たした。そのプログラムは柔軟性があり基礎資料から使用者の要求に応じて追加したり減らしていった。

オンタリオ・パリにある応用芸術と工学のジョージアン・カレッジではリンクプログラムを公式な訓練に引き上げた。アンゼラはカレッジのリンクプログラム学生である。17才の時ビジネス・マシン・オペレーターになることを決めてこのプログラムに入り、成人の環境で学問的に必要な教授が施されることを発見した。

ニュースタートのデレクターであるスタフト・コンガーは“ライフ スキル”の中で基礎知識と職業的スキルの欠かんにより職業を失っていく成人の問題を重視し人間関係と相互の理解が足りないことを解決する為に成人基礎教育問題をライフスキルコース開発にラブヒムスルを指名した。

プリンスアルパートにあるニュースタート訓練研究所ではライフスキルコースとして5部門について開発され実験された。5部門は、自身、職業、家族、余暇、地域社会である。そのコース目的は学生達の問題を効果的に責任ある対応が出来る解決を学生達に教える事にある。ライフスキルコースは学生達に彼等自身の内部洞察と彼等の能力を深めていき、将来職業環境と他のコースでも効果的に扱われる能力を与える。

ライフスキルコースはニュースタートによって訓練されたコーチによりカナダ人力訓練プログラムを形成し多くの州や地域で使用される。タートマウスにあるフィンドレイ学校はライフスキルコースが最も効果的に用いられた例の一つである。タートマウスの人口は65,000 “ハリファクスの寝台”として見られる。多くの漁夫達、実業家、公務員などの住宅がハイファクス地域で働くにしてもタートマウスが用いられるからである。

ピアはフィンドレイ学校に於て基礎教育とライフスキルコース両方を受けた。2年前ピアは3人の子供達を育てるのにお金が足りなくて職を求めた。彼女の限界のある教育では低収入の仕事しか見付からなかった。彼女の家族達はピアのコースを終える事を激励し、ライフスキルコースで再教育を受けた。

ピアとグループの他の学生達とコーチのアンデーモワットは数ヶ月後、親しくなった。彼等はビデオテープを用いてそれぞれ異った役割を試験していった。他の人々がどのように見ているかを習っていった。ピアも段々とスキルを習い初め、彼女の問題を解決する助けに用いることが出来るようになって来た。

ニュースタート生産センターでは全カナダを通じて使用されるプログラムと成人基礎教育資料を創造する助けになる生産プログラムを行なう。ニュースタートプログラムはこのシリーズで論じられた他のプログラムとは違う面がある。

テストは成人基礎言語教育を用い、成人基礎教育テスト、広範囲のアチーブメントテスト、と、その他がある。それぞれの単元の終りにはテストがあり、それらがまたプレプログラムを築いていく。

学生達はカナダの人力センターや福祉機関を通じて寡り、その他のすいせんにもよる。正確な数



字はないが維持はうまくいっている。それぞれのプログラムの単元においてその目標は正確にはつきり説明されている。プログラム使用にあたる手続きは教師のマニエルに予習の必要があるすべての教師の為、説明がされている。

教育的におくれた学生達と共に教師達の暖かい同情と関連する能力は選ばれた教師達の最初の規準である。スタート・コンガー、と彼の助手バーノン・ムーレン、ナイダ・ウエイトならびにラーフ・ヒムスルが創造した強力なプログラムにより会話、算数、リビンスキールを個別化したアプローチにより支持され、よい指導を教師達にあたえている。

#### V コロラドのキャノン市にある刑務所内でのペナル読みプログラム

41 フレームの一連は次の通りである。

1. ローヤル・コージ橋
- 2.3. ローヤル・コージ
4. キャノン市
5. コロラド州刑務所
6. 刑務所管内
- 7.8. 刑務所独房
9. 3収容者
10. 逮捕場面
11. 地域監獄
12. 監獄独房
13. 法院室
14. 収容者が移る
15. 内部センター
16. ジョン・グリフィン
17. ジャク・ラトロフ
18. ジョン・グリフィン、ジャク・ラトロフ
19. 現職クラス
20. 本箱
21. プログラムされた資料
22. 独房での収容者
23. ペイントクラス
24. 三人の収容者
25. リビュー・ポート
26. クラスルーム
27. 学生テスト
28. 収容学生
29. 鍵かけたキャビネット
30. 3収容者
31. 図書館
32. 女子のクラスルーム
33. 女子図書館
34. 中間安全クラスルーム
35. 二人の先生
36. 現職教師
37. 幾人かの収容者
38. 学生と2人の収容者
39. よみに従って
40. ジャク・ラトロフと収容者
41. ジョン・グリフィン卒業。

#### <登場人物>

ジョン・グリフィンはコロラド州立刑務所の運営にあたる連合所長として1970年就任した時ある変化が起り始めた。当時、そこでは小さな基礎教育プログラムがあった。収容された人員の36%は読み書きの出来ないものであるが主な制度のなかで操作する効果的な基礎教育がなかった。

ジョン・グリフィンはジャク・ラトロフを委員会に招き効果的なプログラム設置を助けるようにした。問題は山積していた。設備はよくなく修理中であつた。資料も小学校から州を経て時代おくれの教科書が持ち込まれる有様であつた。多くの在監者は矛盾したシエジョンの中で従事する場所としてそこを見ていた。

ジョン・グリフィンとジャク・ラトロフは改善することを始めた。最初の段階は彼等が何所にいるのか、何所にいこうとしているか目録をつくり、すべてのクラスを中止した。LEAAの補助の下で、85在監者のセムブル要求、興味、能力の評価を採用した。

現職訓練プログラムが教師達の為に始められた。彼等は読みの本質を教え、スキルにも関与し、読みの段階をどのように学習するか、資料の読み能力をどのように評価するか、在監者達の学生と他のものの言語経験を基礎にして読みをどのように教えるかなどなされた。

ジョン・グリフィンとラトロフの努力により150人の在監者が目出度く卒業式を迎え上級クラスに進学或は高校検定合格などの榮譽を得るようになった。

プログラムされた資料は言語経験アプローチをも含めた教授で、モット資料、エテソン・ウエス

レイ箱詰め、ステッキ・ツオウガン、EDLオート・X、リーダーズ・ダイゼスト、SRAキット、ブレンテスーホールのよきよみシリーズならびにミゾリの成人資料のいくらかである。

#### <場 所>

ローヤルコース橋は世界で一番高い所にかかっている橋でアルカンサス河の1055フィートの上にかかっている。

ローヤルコース、鉄道が水面の上にコースの下を走っている。30フィートの巾で鉄道のために橋のような構造で建てる必要が見られる。コースの唇から山々が見える。陸地を分つ最も高い峯がきわ立つ。キャノン市の100哩空間の中に14000フィートを越す峯が12もある。キャノンシティはエレバート山から僅か75哩しか離れてない。エレバート山はコロラド最高の山である。アラカンサス河の溪谷に根ざしたキャノン市では冬は比較的暖かで、きわめて近い白雪の高原或はきびしい山の影響が感じられない。

ローヤルコースは高くそびえる絶壁によって街からかくりされている。コロラド州立刑務所は1869年以来キャノン市の一部になされている。壁の向うには人間生活から離れた荒廃があり、その荒廃によって傷つくことなしには囚人として入ることは不可能な刑務所の構内がある。コロラド州立刑務所は比較的良い収容所である。一般の人達が収容所から予期する2つのことがある。1) 罰として社会からかくりされ、その社会を保護する為である。2) 社会に復帰した時、罪をおかした市民として扱われる。普通の社会から収容所におくのはかんたんであるが、収容所から出て来た人がその社会に復帰するのはなかなか難しい。最近の研究ではキャノン市在住の76%が8年生以上の読みが出来ない。 $\frac{1}{3}$ は全く読み書きが出来ないことがわかった。

このプログラムの特徴は一般の人が或る時ふと一般の社会からかくりされていく過程をそのまま教材にしている。囚人としての生活内部と社会生活との比較、地域監獄から刑務所におくられる過程、収容者の教育など壁に閉ざされて内部の生活が次々と眼前に展開する。収容期間中の学習状況は熱心で、具備された施設を充分に使っている。成人基礎教育の全く別な側面を見せられる。

女性の施設ではメキシマム、或はミデムセクリテイとは違うもっと限定されている教授プログラムがある。基礎クラスは週4回交互に行われ、1日1時間は実際読み教育に限定されている。10週間を一期にして40時間は読みについやす、他の40時間を宿題についやす。女性の図書館設備は最上級であると同時によく利用されている。プログラムは個別化してそれぞれの学生は自身のレベルで学習する。ベル、ホーウエル言語マスター、EDLハウツーマ 規定されたリーダーと共にソフトウェアの資料と箱づめも用いられている。

ミデム・セクリテ・クラスルームは広い学習場所を占め、可動家具や黒板で区切られている。メキシマム・セクリテから移って来た学生に対する継続したプログラムを与えるのを助ける。ミデムに移る学生は本人のフォルダをしたがえて動いていく。コロラド州立刑務所に収容された在監者達は期間中読みと算数の実力を学習し、社会に復帰した時、よりよき機会をうるよう努力している。

以 上

参考文献

INTERNATIONAL READING ASSOCIATION

MODEL ADULT BASIC EDUCATION PROGRAMS \*

- 750 Adult Learning Center, Albany, New York
- 751 Piketon Learning Center, Piketon, Ohio
- 752 Adult Opportunity Program Grants Pass, Oregon
- 753 NewStart, Prince Albert, Saskatchewan, Canada
- 754 Penal Reading Program, Canon City, Colorado

\* filmstrips and recording